

コロナ現金支給もらえる「条件」と「手続き」

知らなきゃ受け取れない 申請書に記入することは? 「収入減少」を証明するには?

ビートたけし「ひょうきん族VSDリフターズ」ウラ斬 志村けんちゃんに敵わなかったこと

東大、早慶、上智ほか13人「ビキニの才媛たち」袋とじヘアヌード○○が大きいお姉さん

週刊 **ポスト**

「8時だヨ!全員集合」の時代

2020 Apr. 4.17 定価470円

4月に都内最大客室数のホテルを開業、大丈夫?

すずさんの英会話 全裸授業

「ホテル壊滅危機」アパグループ 代表に直撃!!

危機下の指導者が発した「響いた演説」「虚しい言葉」

アッキー「様を見る会」会場オーナーを直撃! 会員制秘密レストランの宴 「晋二と昭恵」本当の夫婦関係

完全ガイド

2020年大改正で始まる「得する制度」使えるのはこんな人!

年金の見直し 今が絶好機

60歳オーバーばかり重症化」とBCG接種」の意外な関係

ベッドが足りない! その時「後回し」にされる患者」

担当看護師がいらない、トイレに行くのもままならない 頭痛、腹痛、骨折でも……発熱があったら門前払いが

病院から追い出される

来週の手術、別の病院で受けていたいただきます

すでに始まっている「コロナ感染」より怖いこと

ああ後悔 トラブル続発 にわかネット生活の「やってはいけない」

響弾 血糖値、血圧、尿酸値、BMIが「重病の予兆」は数値の変動が教えてくれる

あなたへの健診結果「2年前」と見比べる

虎ファンの 嘆き節

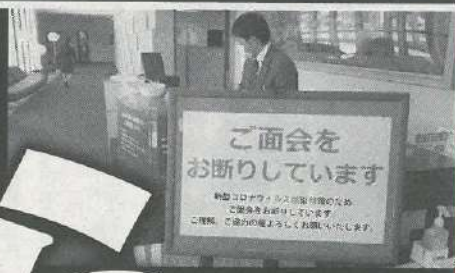
総理の「悪たくみ」仲間が明かす

「大反響／すでに始まっている「コロナ感染」より怖いこと」

ベッドが足りない！呼吸器が足りない！！その時、「後回しにされる患者」は——



病院から



追い出される

「来週の手術ができません。別の病院でお願いします」

ついに日本でも新型コロナウイルスの感染者・死者が急増し始めた。「緊急事態宣言発令」の可能性も囁かれるなかで、警戒はかつてなく高まっている。しかし医療機関では「コロナ感染」よりも恐ろしい事態が起こり始めている——ベッドや人工呼吸器の不足などで、「後回しにされる患者」が出てくるのだ。我々がいま、真に注意すべきことは何なのか。

命に、優先順位、をつけられる

絶対に感染したくない——そう恐怖に脅えている人は多いはずだ。しかし、新型コロナウイルス以上に深刻な事態が迫っている。関東地方在住の30代A氏は、2月に利き腕を復

雑骨折して全治3か月の重傷を負い、手術後はリハビリのために入院することになった。

ところが、リハビリに励んでいた3月末、看護師から突然こう告げられたという。

「ここは4月から新型コロナウイルス患者の受け入れ病棟になるので、別の病棟に移ってください」

A氏が話す。

「私は病棟が変わるだけで済みましたが、看護師さんは「入院リハビリから通院リハビリに切り替えてもらおう患者も出てくる」と言っていました。通院に切り替わるとリハビリを受けられる回数も

軽症コロナ患者は「入院」なのに、
終末期患者は「転院」

PCR検査はできるのに「
脳梗塞」の検査はできない

今すぐに介護が必要なのに「
老人ホーム入居拒否」される

減ってしまうという。骨折とコロナなんて関係ないと思っていたのに、まさか自分にかかわってくるとは……」

同じ病院の別の病棟に移ったA氏が、それまでお世話になった看護師も担当を外れたという。新型コロナウイルスによる医療危機で本当に恐ろしいのは、一般患者の、命の選

別(トリアージ)が進むことだ。元東京大学医学部研究所特任教授で、NPO法人・医療ガバナンス研究所理事長の上昌広医師が指摘する。

「現在、政府は国の威信をかけて新型コロナウイルス患者の命を救おうとしている。しかし医療資源には限りがあり、その裏では

一般の患者が病院を追い出されたり、手術や治療を後回しにされるケースが出てきています」

「多くの感染者・死者を出したイタリア、スペインなどの諸外国では、最も病気がかりやすく、ケアが必要な高齢者が後

「脳梗塞かも…」命にかかわる重病でも 受診を断わられ、検査すらできない

微熱があるだけでNG

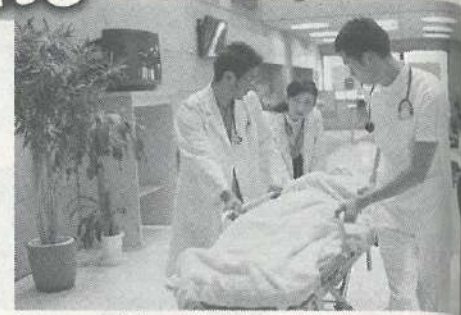
都内在住の男性B氏(55)は、3週間ほど前から片頭痛のような鈍い頭痛と軽いめまいに悩まされていた。

Lコレステロール値が高いとの結果が出ていたため、「もしかして脳梗塞かも…」と不安になり、診察・検査してもらおうために近所にある脳神経外科クリニックを予約した。

3月末に病院を訪れ、受付の女性に保険証を手渡したB氏は、受付カウンターで1枚の文書を提示された。

「倦怠感がある」「2週間以内に海外への渡航歴がある」「職場/家族に発熱している者や感染者がいる」

「咳が出ていたので正直に申告すると、受付の女性から『申し訳ありませんが、一つでも該当する



急を要する治療も受けられなくなる

そう指摘するのは、くどうちあき脳神経外科クリニックの工藤千秋院長(脳神経外科)だ。

「たとえば、くも膜下出血の初期症状では、頭がズキズキ痛んだり、目ま

いが生じるケースがあります。その時点で早期発見できれば処置が可能なのに、軽い発熱や咳で受診を拒否されると、手遅れになる怖れがあります」(工藤院長)

「咳が出ていたので正直に申告すると、受付の女性から『申し訳ありませんが、一つでも該当する

紹介状を書いてもらえない

新型コロナウイルス感染症の有無を判断する「PCR検査」は、保険適用となり検査体制が拡充されている。

日本の新型コロナの致死率は、欧米諸国に比べ

て格段に低いが、その一方で脳疾患などの命の危険に直結する病気の検査や診断が「門前払い」されるという矛盾が生じている。

千葉大学医学部附属病院副院長で、病院経営管理研究センター長・特任教授の井上貴裕氏は、医療機関の現状に警鐘を鳴らす。

がん切除、心臓病、ヘルニア…… 手術日も執刀医も突然変更される

「最も心配されるのは脳に関連する疾患の発見が遅れることです」

執刀日が決まっていた手術が延期される事態も

各地で起こっている。それは新型コロナウイルス患者

の受け入れが多い医療機関で顕著だ。前出・上医師が指摘する。

「すでに始まっている『コロナ感染』より怖いこと 病院から追い出される

また、世界的な需要の急増でマスクやアルコール消毒液が不足し、自主的に休診する医療機関が増えていることも本誌前号で詳しく伝えた。

さらに最近では、体調に不安を感じて病院に行っても、受診できずに追い返されてしまうケースが増えているのである。

なかでも懸念されるのは、B氏のように「命の危険に直結する病気」の兆候を訴えても、診察や検査が受けられない事態だ。

「現在、関東地区の感染症指定医療機関では、新

「日韓衝突」の原点はここにあった

井沢元彦

恨の法廷

大反響発売中!!

定価(本体)1,200円(税別)